

小樽商科大学 卒業論文 (昭和32年度)

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和32	865	流動性選好理論に関する若干の批判的考察 -利子率の決定について-	
昭和32	866	ハロッド「景気循環論」の研究	
昭和32	867	投資の機能分析とその政策的意義	
昭和32	868	為替相場切下げに関する一考察	
昭和32	869	戦後の日本経済の構造分析	
昭和32	870	ケインズ財政政策批判	
昭和32	871	後進国開発理論の一考察 -ヌルクセ・シンガーの所論を中心にして-	
昭和32	872	完全雇用を目的とした経済の成長と発展	
昭和32	873	アジアにおける近代化の研究	
昭和32	874	賃銀と雇用に関する一考察	
昭和32	875	国際経済の課題 -世界平和の経済的条件に関する一考察-	
昭和32	876	ヒックスの景気循環論に関するノート -乗数と加速度因子のメカニズムを中心とする吟味と批判-	
昭和32	877	産業連関分析に於ける外国貿易	
昭和32	878	日本の貿易と経済 -戦後日本貿易の諸特質に関して-	
昭和32	879	後進国経済発展にかんする三つの理論	
昭和32	880	G.ミュルダール著 『発展と未発展』	
昭和32	881	E.ルンドベリイ著 経済拡張理論の研究 第一章～第三章 (翻訳その一)	
昭和32	882	E.ルンドベリイ著 経済拡張理論の研究 第四章～第八章 (翻訳その二)	
昭和32	883	E.ルンドベリイ著 経済拡張理論の研究 第九章～第十章 (翻訳その三)	
昭和32	884	アラゴンのエルザ・ベレニス像	
昭和32	885	(抄訳) W.T.C.キング著 『ロンドン割引市場史論』	
昭和32	886	根釧原野機械開墾とパイロット・ファームの実態調査	
昭和32	886	根釧原野機械開墾とパイロット・ファームの実態調査	
昭和32	887	アメリカにおける経済力の集中	
昭和32	888	フローレンス「英米産業のロジック」紹介及び若干の問題点に就いて	
昭和32	889	アメリカに於ける独占形成過程の研究	
昭和32	890	経済変動と金融要因 -戦後日本経済を通じて-	
昭和32	891	経済活動と金利効果に関する一考察 -セイヤーズ理論をめぐる-	
昭和32	892	アメリカにおける支払準備制度の成立と成長過程	
昭和32	893	英国に於ける古典的金利政策に関する一考察	
昭和32	894	インフレーションの原因と対策に関する一考察	
昭和32	895	イギリスにおける初期中間層の形成過程 -十九世紀中葉の「熟練労働者」を中心として-	
昭和32	896	幸徳秋水を中心とする明治社会主義運動	
昭和32	897	イギリスにおける第一次エンクロージャーの一例 -L.A.パーカー著『コウツバチの農業革命一五〇一～一六一二年』全訳	
昭和32	898	中世に於ける階級闘争と農民 -庄園制の崩壊に関連して-	
昭和32	899	三菱銀行史	
昭和32	900	イギリス十八世紀におけるエンクロージャについて	
昭和32	901	一四五〇年「ジャック・ケイドの一揆」	
昭和32	902	イギリス革命期の農民 -ディカーズ運動を中心にして-	
昭和32	903	人間の生き方	
昭和32	904	中世都市成立期における諸問題について -ピレンヌ説への反論-	
昭和32	905	大正七年の米騒動 -歴史的背景と階級的性格-	
昭和32	906	共同海損について	
昭和32	907	海産委付について	
昭和32	908	近因主義理論案内	
昭和32	909	共同海損に於ける英国と米国の相違についての一考察(ヨーク・アントワープ規則と比較して)	
昭和32	910	海上危険並びにその特定	
昭和32	911	共同海損損失としての避難港に関する費用	
昭和32	912	船舶保険普通約款に於ける免責規定(第三条)について	
昭和32	913	保険契約に於ける告知義務	
昭和32	914	貨幣価値変動と評価基準	
昭和32	915	割賦販売に於ける収益認識の基準について	
昭和32	916	会計主体に関する若干の考察	

小樽商科大学 卒業論文 (昭和32年度)

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和32	917	内部監査の本質 -内部統制及び外部監査との関連-	
昭和32	918	税法と純資産増加説 -その主体問題に波及して-	
昭和32	919	会計士監査に関する一考察 -会計士監査と内部監査及監査役監査-	
昭和32	920	発生主義と実現主義	
昭和32	921	直接原価計算実施上の問題点	
昭和32	922	剰余金区分に関する一考察	
昭和32	923	経営の成果計算の考察より賃金に関する一考察	
昭和32	924	監査基準分析	
昭和32	925	損益計算書分析の理論と実際 -S.GilmanならびにH.E.Gregoryを中心として-	
昭和32	926	費用収益の認識と発生主義	
昭和32	927	費用収益対応の原則について	
昭和32	928	損益分岐点と経営分析	
昭和32	929	資本概念に関する一考察	
昭和32	930	直接原価計算小論	
昭和32	931	留保利益と資本会計	
昭和32	932	資金概念の会計学的導入より資産評価構造の考察に及ぶ	
昭和32	933	損益計算の一考察 -費用範疇からの接近-	
昭和32	934	利子-会計主体-会計学の性格	
昭和32	935	会計原則としての保守主義	
昭和32	936	直接原価計算の制度化をめぐる	
昭和32	937	固定資産評価益をめぐる租税・商法・会計原則の立場	
昭和32	938	減価償却概念の拡大化について	
昭和32	939	企業会計原則と商法 -資本剰余金について-	
昭和32	940	期間損益計算の形態に関する一考察 -当期業績主義と包括主義の関係-	
昭和32	941	景気変動論 -恐慌のための一試論-	
昭和32	942	シュムペーター理論に対する若干の考察	
昭和32	943	カレッキー景気循環論考察 -その年代的経過を巡って-	
昭和32	944	オリゴポリと経済変動	
昭和32	945	ケインズと景気循環論	
昭和32	946	利子率とL.M.S.I曲線〈ハンセン利子所論批判〉	
昭和32	947	経済成長と不安定性 -ハロッド理論に於ける企業者行動を中心として-	
昭和32	948	ハロッドの経済動学	
昭和32	949	均衡分析の再検討	
昭和32	950	長期停滞論 -独占と停滞-	
昭和32	951	ヒックス「景気循環論」に関する考察 -その批判論文を中心として-	
昭和32	952	後進国開発の経済的諸問題 -資本形成の理論と政策-	
昭和32	953	カレッキー「経済動学の理論」に於ける投資決定函数の考察	
昭和32	954	資本係数についての若干の考察	
昭和32	955	日本経済の発展と産業構造	
昭和32	956	経済成長理論の一考察 -経済成長における技術的進歩と分配率-	
昭和32	957	カレッキーの景気理論 -経済動学理論の紹介と批判-	
昭和32	958	長期停滞理論 -ケインズ及びハンセンを中心として-	
昭和32	959	経済成長理論と古典派理論の再認識 -長期動学理論に関して-	
昭和32	960	長期停滞理論に対する一考察	
昭和32	961	サムエルソン、ヒックスの動態理論に関する研究	
昭和32	962	ケインズ投資誘因に於ける「資本の限界効率ならびに期行及び不確実性に就いて」	
昭和32	963	ケインズ利子一般理論に関する一考察	
昭和32	964	現代利子率決定理論に関する一考察 -貸付資金説と流動性選好説-	
昭和32	965	日本の貿易と国際収支との関係	
昭和32	966	ソビエト経済の概観	
昭和32	967	(抄訳) C.H.アレキサンドロヴィッチ著 国際経済諸機構 -国際通貨基金及び国際復興開発銀行-	
昭和32	968	帝国主義の経済関係 -第一次世界大戦に至るまでの歴史的観察-	
昭和32	969	我国に於ける国際収支及び貿易、為替に関する史的考察	

小樽商科大学 卒業論文 (昭和32年度)

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和32	970	Some Aspects of International Economic Inequality	
昭和32	971	戦後資本主義世界経済の動向に於けるドル不足問題	
昭和32	972	東南アジア貿易に関する若干の考察	
昭和32	973	商業英語に関する一試論 -如何に効果的商用文を書くか-	
昭和32	974	後進国開発に関する若干の考察	
昭和32	975	戦後貿易商社の展望 -戦前と戦後の比較分析-	
昭和32	976	日本資本主義と外国貿易	
昭和32	977	低開発諸国の工業化と外国貿易	
昭和32	978	日本経済と国際収支 -第二次大戦後に重点をおいて-	
昭和32	979	現代における国際投資の意義について若干の考察	
昭和32	980	世界経済の構造的不均衡	
昭和32	981	東南アジアの経済開発	
昭和32	982	国際貿易に於ける所得分析	
昭和32	983	日本経済の発展と輸入との関係	
昭和32	984	日本経済と国際収支	
昭和32	985	国際収支の諸問題	
昭和32	986	日本経済と外国資本 -とくにその導入を中心として-	
昭和32	987	自己株式の所得に就いて	
昭和32	988	株式会社債比較論	
昭和32	989	株式会社における「法」と「経済」の乗理と接近 -経営者支配の法的考察-	
昭和32	990	取締役の責任について	
昭和32	991	株式の本質	
昭和32	992	代表訴訟及び差止権について	
昭和32	993	株主の議決権について	
昭和32	994	株式会社法改正による意思決定機関の比重に就いての一考察	
昭和32	995	株式名義書換論	
昭和32	996	株式会社に於ける資本と株式との関係	
昭和32	997	企業自体の法理	
昭和32	998	取締役会と経営権	
昭和32	999	株主総会決議の無効と取消	
昭和32	1000	株式会社合併の一考察	
昭和32	1001	株式會に於ける多数決の原則	
昭和32	1002	株式會社に於ける利益配当 -配当制限を中心として-	
昭和32	1003	株式会社に於ける資本の意義とその構成並びに変更について	
昭和32	1004	株式払込金領收証論	
昭和32	1005	株式譲渡の自由	
昭和32	1006	有効價格 -生産資源の能率的配分-	
昭和32	1007	リニヤー・プログラミングに於る相對問題とゲームの理論	
昭和32	1008	オペレーションズ・リサーチのアウトラインと順番待ちの理論	
昭和32	1009	財政と景気変動	
昭和32	1010	生産在庫計画	
昭和32	1011	在庫量管理論 -統計的方法及びO.R.の一手法としての線型計画法(L.P)に依る方法を中心に-	
昭和32	1012	企業経営の数理的方法	
昭和32	1013	リニヤー・プログラミングと経済理論	
昭和32	1014	ゲームの理論と計算 -ゲーム理論の初歩の理解のために-	
昭和32	1015	経営合理化に関する経営費用的考察	
昭和32	1016	利益計画の樹立と財務流動性	
昭和32	1017	人事管理一考	
昭和32	1018	労使関係をどう考えるか	
昭和32	1019	ヒューマン・リレーションズに関する若干の考察	
昭和32	1020	近代企業経営に於ける管理構造 -経営管理構造よりトップマネジメントに至る一試論-	
昭和32	1021	経営管理と予算統制	
昭和32	1022	わが国における賃金形態の特質	
昭和32	1023	オートメーションの經營的考察	

小樽商科大学 卒業論文（昭和32年度）

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和32	1024	労務管理の基礎と前提条件 所謂「資本と経営の分離」と二重構造論	
昭和32	1025	価格政策と利益計画	
昭和32	1026	産業金融上から見た証券市場 -金融市場と証券市場との関係を中心として-	
昭和32	1027	運転資本の合理的操作	
昭和32	1028	賃金形態に関する一考察	
昭和32	1029	商業広告の効果とその広告表現の -とくに視覚広告の表現の-技術について-	
昭和32	1030	企業経営と景気変動	
昭和32	1031	中小企業はいかに市場調査を利用するか	
昭和32	1032	広告とその効果	
昭和32	1033	産業資金調達に於ける社債の効果	
昭和32	1034	割賦販売論	
昭和32	1035	PRと広告	
昭和32	1036	テレビジョン広告	
昭和32	1037	株式相場変動に対する巨視的考察	
昭和32	1038	販売費分析 -その具体的実施についての-一考察-	
昭和32	1039	オートメーションと日本経済の進路	
昭和32	1040	中小工業の生産性向上	
昭和32	1041	ケインズ利子理論とその展開	
昭和32	1042	ヴィクセル経済学に関する若干の考察	
昭和32	1043	財政政策 -完全雇用目標中心として-	
昭和32	1044	回帰分析について	
昭和32	1045	空間競争としての独占競争市場	
昭和32	1046	后進国開発の一考察 -東南アジアを中心として-	
昭和32	1047	J.S.ミルの生産論研究	
昭和32	1048	十八世紀イギリス経済思想を中心とする一考察	
昭和32	1049	賃金格差論	
昭和32	1050	有効需要の原理	
昭和32	1051	リカード価値論の研究	
昭和32	1052	ケインズ「一般理論」における雇用理論の特質	
昭和32	1053	ケインズの社会哲学的観点とその経済学の方法	
昭和32	1054	労働市場と賃銀決定をめぐる諸要素	
昭和32	1055	J.E.ミードの計画経済理論の若干の省察	